

タナラ文の用法

——「命題内容」と「条件設定」という観点から——

康 雯 琪

1 はじめに

現代日本語の条件表現には、タナラという形式がある。グループ・ジャマシイ（1998）は、タナラは「「たら」を強調した、やや古風な言い方で、仮定条件や反事実条件を表す場合に用いられる。」と述べている。そして、（1）のような仮定条件と（2）（3）のような反事実条件の例を挙げている。

（1）困ることがあったならいつでも相談に來い。

（2）もう少し発見が早かったなら助かったのに。

（3）もしも私に翼があったなら大空を自由にかけまわりたい。

また、益岡隆志（2002）は、タナラでは「前件が表す事態が真として想定されているというわけではない」と述べ、次の例を挙げている。

（4）目的地に着いたなら、すぐに連絡をしてくれ。

以上の先行研究ではタナラの用法を仮定条件と反事実条件しか記述していないという問題がある。仮定条件とは、現実世界にまだ起こっていない事態が実現したと想定している用法であると言え、反事実条件とは、現実世界に反する事態が実現したと想定している用法であると言える。即ち先行研究に従えば、タナラは、前件の実現が「想定」即ち「仮定」の上で成立すると言える。しかし、（5）の例では、タナラには二通りあり、出たと確信して言う場合と、出たと想像して言う場合がある。

（5）きのうボーナスが出たなら、買い物に行こう。（作例）

（5）では、「出た」と確信して言う場合には、タナラが「きのう出た」という現実世界の出来事を受けている。「出た」と想像して言う場合には、タナラが「きのう出た」という現実世界の出来事と関係しない想定の手態を受けている。従って、タナラには現実世界の出来事と無関係の設定という仮定的な意味、現実世界に反する設定という反事実的な意味が見られるほか、「実現した」、「既に起こった」現実世界の出来事を受けた設定という非仮定的な意味もあると言える。本稿は、タナラの用法を考える際にこの「仮定」・「反事実」・「非仮定」の条件設定と現実世界の出来事との関係に注目して考察を進めていくことにする。

ところで、タナラには次の例のように、他者の発話、或いはタナラ文の先行文脈や現実の状況から伝えられてきた事柄を受けるという特徴が見られる。

(6) 「C130輸送機だが、使われることなく帰国することになった。派遣が無駄だったとの声も出そうだが」に「もし無駄という人がいたなら、わたしは本当に無駄でよかったと言いたい。」(産経新聞 H10.05.27)

(7) かつて下田ナオは東京帝国大学附属病院の看護婦養成所を優秀な成績で卒業した。それから日本赤十字病院に勤めた。そのまま勤めていたなら彼女はとうに主席看護婦の地位に近づいていたかも知れない。(樗家の人びと／北杜夫)

(8) 騎兵を主力とする匈奴に向って、一隊の騎馬兵をも連れずに歩兵ばかり(馬に跨る者は、陵とその幕僚数人に過ぎなかった)、で奥地深く侵入することからして、無謀の極という外は無い。その歩兵も僅か五千、絶えて援援は無く、しかもこの浚稽山は、最も近い漢塞の居延からでも倭に一千五百里(支那里程)は離れている。統率者李陵への絶対的な信頼と心服とがなかったなら到底続けられるような行軍ではなかった。(李陵・山月記／中島敦)

タナラの受けている情報は、(6) では話し手が言ったことでなく、聞き手の言った「派遣が無駄だったとの声も出そうだが」である。(7) では、先行文脈で述べられた「下田ナオは日本赤十字病院に勤めた」である。先行文脈は既に起こった事柄であるので、タナラは現実世界に反する情報を受けていると言える。(8) では、「歩兵が李陵へ信頼や心服をもつ」ということは先行文脈で述べられていないが、「李陵への絶対的な信頼と心服とがあったので、行軍を続けられた」という事実がタナラの前後の文脈から推定できる。この明示されていない事実と反する表現がタナラの受けている情報で用いられている。タナラは暗黙の事実と反する表現を受けていると言える。これらのタナラは、相手の発話や事実などの現実世界の出来事を受けており、そこから考えられた推測や視点などが後件で述べられていると言える。このことは、タナラが他者からの情報を承接していることを示している。

そこで、本稿ではタナラが現実世界の出来事を受けていることと仮定・反事実・非仮定的という条件設定との関係を明らかにし、そこからタナラの用法を提示することを試みる。

2 タナラの成立基準

先にも述べたように、タナラはある情報を受けていると考えられる。タナラの受けている情報Pは(9)のように現実世界のこと、及び現実世界を条件表現にする話し手の条件設定の仕方という二つによって分析することができる。

- (9)
$$P \begin{cases} \text{現実世界 R} \\ \text{話し手の条件設定の立場 S} \end{cases}$$

発話時ですでに存在するすべての事柄は現実世界 R を構成する。現実世界 R には実現済のものと未実現のものが見られる。例えば (10) の「きのうボーナスが出た」という情報は過去の時点に完成した事柄であり、実現済の事態として考えられる。実現済の情報は現実世界で確定した情報である。

(10) A: きのうボーナスが出たよ。

B: きのうボーナスが出たなら、明日は買い物に行こう。(作例)

また、未実現のものは更に現在存在していない事柄と現実世界で実現の確実性が不明な事柄に分けることができる。未実現のものは (11) のように、タナラの受けている情報が予想通りに実現できるか、予定の変更によって実現できないかが現実世界でまだ決定されていないので、前件は現実世界で不確定的な情報を表していると言える。(12) では、「タイムマシンがある」というタナラの受けている情報は現実世界では有り得ないことであり、現在存在していない事柄を表していると言える。(13) では、「明日雨が降る」というタナラの受けている情報は未来の事柄であり、この事柄の実現の確実性は現実世界では不明である。

(11) A: 会社は明日ボーナスを配る予定なんだけど…

B: 明日ボーナスが出たなら、買い物に行こう。(作例)

(12) ロンドンの競売で中世英国の詩人チャョーサーの「カンタベリー物語」の初版本に、印刷された本としては史上最高値の460万ポンド、約10億6000万円の値がついた。タイムマシンがあったなら、と思う人がいるかもしれない。(日経新聞 H10.07)

(13) 明日雨が降ったなら、試合は中止になります。(作例)

以上、現実世界 R における様々な出来事の種類を見てきたが、それぞれの出来事の間には、(14) のような二項対立の関係が見られる。

- (14)
$$\text{現実世界 R} \begin{cases} \text{実現済} \\ \text{未実現} \end{cases} \begin{cases} \text{非存在} \\ \text{不明} \end{cases}$$

次に、話し手の条件設定の立場 S は仮定と現実世界の出来事を受けた設定の二つに分けることができる。

- (15)
$$\text{条件設定 S} \begin{cases} \text{仮定} \\ \text{現実世界の出来事を受けた設定} \end{cases}$$

仮定には現実世界の出来事と無関係の設定と現実世界に反する設定が見られる。現実世界

の出来事と無関係の設定というのは(16)のように、現実世界で起こっていない事態を表す前件と後件が共に実現したと想定するような用法である。

- (16) 「…和倉さん、今度三堀君に何かあやまちがあったなら、ほくも共に辞めさせられてもかまいません。どうかこの度だけは、何とか助けてやっていただけませんか」信夫は、冷たい三和土に額をすりつけたまま、頭を上げようとしなかった。
(塩狩峠／三浦綾子)

また、現実世界に反する設定というのは(17)～(19)のように、現実世界の出来事に反する事態が実現したと想定するような用法である。(17)では、「取締役会がしっかりと役目を果たしている」というタナラの受けている情報は、先行文脈の「小回りのきかない取締役」と対立する意味関係にあり、事実と逆のことを表している。(18)では、タナラの受けている情報は「私が61本のホームランを打った」という現実世界の出来事を否定する形で反事実条件を表している。(19)では、a～cのタナラの受けている情報は「彼女には一人の子供がいる」という現実世界の出来事に反するものである。このように、反事実的な用法は未実現の事態を表すだけでなく、現実世界で偽の事柄を表しているという特徴を持っているため、仮定的な用法と区別して考える必要がある。

- (17) 小回りのきかない取締役とは別に、少人数の常務会や経営会議を置くところも多い。山一証券や北海道拓殖銀行で、取締役会がしっかりと役目を果たしていたならば、破たんは避けられただろう。(朝日新聞 H10.05.17)
- (18) 「もし、私が61本のホームランを打たなかったならば、自分にとって野球はもっとずっと楽しいものだったろう」。一九六一年、大リーグのホームラン記録を塗り替えたロジャー・マリスの言葉が残る。(日経新聞 H10.09.04)
- (19) (現実世界：彼女には一人の子供がいる。仕事と育児を両立させている。)
- a 二人の子供がいたなら、
 - b 三人の子供がいたなら、仕事と育児を両立できなかっただろう。(作例)
 - c 四人の子供がいたなら、

そして、現実世界の出来事を受けた設定というのは、前件に発話の場面で得た情報を挙げ、後件に話し手の判断・態度を表すような用法である。(20)では、タナラの受けている情報は聞き手の決意であり、後件はその聞き手の決意に対する話し手の観点である。この例では、タナラの受けている情報は「仮に起こったこと」や「反事実」と想定される事態ではなく、「既に起こったこと」であり、現実世界の出来事を受けた設定として考えられる。

- (20) 僕が四十歳になる少し前、それまで町役場を休職して組合活動をしてたんですが、休職期間を使い切って、役場に戻るか、それとも退職して組合を続けるか決めた

きやならなくなった。悩みましてね。それで、自分で「組合をやろう」と決め、そのあと、おやじに言ったんです。そしたら、さらっと「決めたなら、頑張ってみる」。あの言葉、今も忘れません。(朝日新聞 H8.11. 18)

以上、条件設定 S における様々な設定の種類を見てきたが、それぞれの設定の間には、(21) のような二項対立の関係が見られる

$$(21) \text{ 条件設定 } S \left\{ \begin{array}{l} \text{仮定} \left\{ \begin{array}{l} \text{現実世界の出来事と無関係の設定} \\ \text{現実世界に反する設定} \end{array} \right. \\ \text{現実世界の出来事を受けた設定} \end{array} \right.$$

このように、タナラには、タナラの受けている情報と話し手の条件設定に関するものという二つの基準がある。そして、このタナラの受けている情報はタナラの前件、即ち命題の内容に当たるものである。従って、タナラは命題内容と条件設定に関する六つの素性によって次のように、九種類に分類することができる。

(表 1)

命題内容 条件設定		実現済	未実現	
			非存在	不明
仮 定	現実世界の出来事と無関係の設定	文型 1	文型 4	文型 7
	現実世界に反する設定	文型 2	文型 5	文型 8
現実世界の出来事を受けた設定		文型 3	文型 6	文型 9

3 タナラ文における九文型の有効性

本節では、命題に関するものと、話し手の条件設定に関するものという二つの基準から導き出した九つの文型について、実例から検討する。

まず、タナラの命題が実現済の場合には、現実世界の出来事と無関係の設定を表す文型 1 と現実世界に反する設定を表す文型 2 と現実世界の出来事を受けた設定を表す文型 3 がある。

文型 1 は、タナラの命題が実現済の事柄であり、現実世界の出来事と無関係の設定として用いられているものである。しかし、既述のように、現実世界の出来事と無関係の設定は、仮定条件であり、未実現の事態を実現したと想定するものである。仮定条件では、タナラの命題が必ず未実現の事柄でなければならない。従って、命題の内容と、仮定条件の本質との間に、意味の食い違いが生じてくる。タナラの用法で文型 1 は有り得ないものである。

文型 2 は、タナラの命題が実現済の事柄で、現実世界の出来事に反する事態を想定しているものである。反事実条件として用いられているものである。(22) のタナラの命題は、「金融機関の不良債権が急増していた」という実現済の事柄に反する事柄である。(23) のタナ

ラの命題は、「雷鳥が飛び回っている」という現実世界の出来事に反する事柄である。

(22) バブル崩壊で金融機関の不良債権が急増していなかったなら、資本が足りない金融機関も運営を続けられていただろう。(作例)

(23) 目的地へいそごうとする親鳥の意志に反して、遊び廻っている子鳥を叱る親鳥の声が静寂をつき破って聞えた。雷鳥は夏のよそおいをしていた。もし動かないでじっとしていたならば、道松と見分けはつかないほど、道松のなかにとけこんだ羽根の色をしていた。(狐高の人／新田次郎)

文型3は、タナラの命題が実現済の事柄であり、現実世界の出来事を受けた設定として用いられているものである。(24a)は、タナラが仮定的な意味を表しておらず、「沖縄にいた」という命題は「雪を知らない」という現実世界の出来事の原因・理由とも言える。このタナラは(24b)のように、「ノデ」・「カラ」とほぼ同じ意味を持っている。また、(25a)では聞き手の言った「勝ったよ、どうにか」という柳の状況が現実世界の出来事であり、話し手と聞き手の共通の話題となっている。このタナラは命題が現実世界の出来事であるため、仮定条件を表すことができない。そして、話し手はこの現実世界の出来事を話題として、後件で話題についての視点を述べている。従って、このタナラは話題を引継いたり、述べていったりする特徴をもっていると位置づけられる。

(24) a 雪を知らなかった私が「空から綿が降るんやね」と驚き、教室中は大爆笑。恥ずかしかった。すると先生が「沖縄にいたなら知らんわな。よし、明日はみんなで雪だるまを作ろう」と言った。子供たちの心はこの言葉で一つになった。

(毎日新聞 H10.9.26)

b…(略)「沖縄にいたのでから、知らんわな。…」

(25) 私は急き込むように訊ねた。「それで、どうしました、柳は!」「勝ったよ、どうにか」タイトルを他のボクサーに持っていけなかったことにホッとしたが、次にそれならどうして内藤と闘うことができないのか不思議に思えてきた。

「勝ったなら、問題ないじゃないですか」(一瞬の夏／沢木耕太郎)

以上、文型3は「仮定」の意味ではなく、「原因・理由」と「話題展開」を表すことを見えてきた。前田直子(1991)は「前件が事実であることが確認されている仮説的な条件文は理由文に近づく」ということを論理文の「一般的」な原則としている。タナラもこの原則に従っているのである。また、進沼昭子(1985)は「ナラは他者(典型的に聞き手)の意向・主張とそれを根拠とする話し手の発話意図(決意、判断、要求など)の関係づけを行うのをその原型的用法にもつ」と述べている。前述した(20)では、「決めた」という命題は聞き手の意向・主張を示している。従って、進沼昭子(1985)の述べたナラの用法は「話題展

開」のタナラの中にも見られる。

ただし、「話題展開」のタナラは「他者の意向・主張」を根拠としている用法だけではなく、(25)のように、「柳が勝った」という「他者の状況」を根拠としている用法もある。進沼昭子(1985)によると、「アナタガ〜ヲ望ム／シタイ／ショウトスル／スル気(ツモリ)／ト言ウナラなどの形式をもつもの」が「他者の意向・主張が関与するナラ」に属している。しかし、(25)の「話題展開」を表すタナラは、それらの形式の介在によって、生じるものではなく、進沼昭子(1985)で述べたナラとは一致していない。

次に、タナラの命題が未実現であり、それが現在存在していない事態を示す場合には、現実世界の出来事と無関係の設定を表す文型4と現実世界に反する設定を表す文型5と現実世界の出来事を受けた設定を表す文型6に分類することができる。

文型4は、タナラの命題が現在存在していない事柄であり、現実世界の出来事と無関係の設定として用いられているものである。この文型は(26)のように、現在存在していないことを条件として設定すると、必ず反事実条件文となる。この反事実条件文と現実世界の出来事と無関係の設定との間に、矛盾が生じてくる。従って、タナラの用法で文型4は有り得ないものである。

(26) ドラえもんのタケコプターがあったなら、あちこち飛ぶことができたのに。(作例)

文型5は、タナラの命題が、現在存在していないものであり、現実世界に反する設定として用いられているものである。(27)では、タイムマシンは何十年、何百年の後で発明されるかもしれないが、現実世界ではまだできておらず、タナラの命題は事実に反することと言える。

(27) タイムマシンがあったなら、中世の英国に戻って絶版の本を買いに行ったのに。(作例)

文型6は、タナラの命題が、現在存在していないものであり、現実世界の出来事を受けた設定として用いられているものである。しかし、(28)では、「肉食恐竜が現存している」ことは現在存在していないことであり、恐竜が既に消えた現代では、現実世界に反することとして考えることができる。この現実世界に反することと現実世界の出来事を受けた設定との間に、矛盾が生じてくるので、タナラの用法で文型6は有り得ないものである。

(28) 肉食恐竜が現存していたなら、人間は恐竜に襲われる恐怖の中で生きていただろう。(作例)

最後に、タナラの命題が未実現であり、その情報の実現が不明であることを示す場合には、現実世界の出来事と無関係の設定を表す文型7と現実世界に反する設定を表す文型8と現実

世界の出来事を受けた設定を表す文型 9 に分類することができる。

文型 7 は、タナラの命題が現実世界で実現の確実性が不明なものであり、現実世界の出来事と無関係の設定として用いられているものである。(29) では、「雨が朝から降っている」ことを「明日実現する」と設定しても、現実世界で「明日必ず実現することになる」とは確定できない。

(29) 明日雨が朝から降っていたなら、試合は中止になるだろう。(作例)

文型 8 は、タナラの命題が現実世界で実現の確実性が不明なものであり、現実世界に反する設定として用いられているものである。しかし、タナラの命題では、事柄は実現できるとしても、未来の時点でしか成立できないので、現実世界の出来事と無関係の設定として用いられていると言える。そのため、日常の言語で文型 8 はないと考えられる。(30) では、タナラの受けている情報は未来の事柄であり、「子供が塾に通い始める」ことが発話時に「来月必ず行くことになる」とは確定できない。反事実の意味をもっているとは言い難い。

(30) 来月子供が塾に通い始めたなら、家庭の出費がもっと増えるだろう。(作例)

文型 9 は、タナラの命題が実現の確実性が不明な事柄であり、現実世界の出来事を受けた設定として用いられているものである。そのような前件をとる文は (31) のように、後件が必ず仮定的な帰結でなければならない。この非仮定的な命題と仮定的な帰結との間に、矛盾が生じてくる。従って、タナラの用法で文型 9 は有り得ないものである。

(31) この新製品が商品化されたなら、わが社は大きな利益を得るだろう。(作例)

4 ま と め

本稿では、「命題内容」と「条件設定」という二つ観点によって、タナラの意味を取り出した。その分析からタナラの用法とその用法中の意味的な要因を分類してみると、(表 2) のようになる。

(表 2)

命題内容		実現済	未実現	
			非存在	不明
仮 定	現実世界の出来事と無関係の設定			仮定
	現実世界に反する設定	反事実	反事実	
現実世界の出来事を受けた設定		原因・理由 話題の引継ぎ		

先行研究では、タナラは「仮定条件」と「反事実条件」を表すとされている。しかし、本稿の考察から、タナラには「仮定条件」と「反事実条件」という用法だけでなく、「原因・理由」と「話題の引継ぎ」という用法もあることが分かった。

タナラの命題が実現済になる場合、タナラは、「原因・理由」、「話題の引継ぎ」、「反事実条件」を表している。そして、このようなタナラは次のような用法上の特徴が見られる。

- (A) 「原因・理由」のタナラは、「前件が事実であることが確認されている仮説的な条件文は理由文に近づく」(前田直子 (1991)) という論理文の「一般的」な原則に従っている。
- (B) 「話題の引継ぎ」のタナラには、他者の意向・主張を根拠としている用法だけでなく、他者の状況を根拠としている用法もある。
- (C) 実現済のタナラには、「原因・理由」、「話題の引継ぎ」を表しているものがあるほか、「反事実条件」を表しているものも見られる。実現済の事柄を「仮定条件」として用いることはできない。

タナラの命題が未実現になると、タナラは、「仮定条件」と「反事実条件」を表す。そして、このようなタナラは次のような用法上の特徴が見られる。

- (D) タナラの受けている未実現の情報が現在存在していない事柄になると、タナラは「反事実条件」を表す。また、現在存在していない事柄を「仮定条件」として用いることはできない。
- (E) タナラの受けている未実現の情報が実現の確実性が不明な事柄になると、タナラは「仮定条件」を表す。また、実現の確実性が不明な事柄は「反事実条件」として用いることができない。

〈参考文献〉

- グループ・ジャマシイ (1998) 『日本語文型辞典』くろしお出版
国立国語研究所 (1964) 『現代雑誌九十種の用語用字 (3) 分析』国立国語研究所
鈴木義和 (1993) 『ナラ条件文の意味』『日本語の条件表現』くろしお出版
鈴木義和 (1994) 『条件表現各論——バノト／タラ／ナラ——』『日本語学』13-9
田窪行則 (1993) 『談話管理理論による日本語の反事実条件文』『日本語の条件表現』くろしお出版
進沼昭子 (1985) 『ナラとトスレバ』『日本語教育』56
前田直子 (1991) 『「論理文」の体系性——条件文・理由文・逆条件文をめぐって——』『日本学報』10
益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』くろしお出版
益岡隆志 (2002) 『2 複文各論』『複文と談話』岩波書店
(コウ プンキ 岡山大学大学院文化科学研究科 開南管理学院講師)